

## 8. 数値目標と進行管理方法

### 8.1 数値目標

本計画における基本理念及びまちづくりの方針を効果的に実現するため、実施される施策の効果を評価する「評価指標」を以下のように設けます。

#### 1) 誘導施設の立地状況

評価指標	現状値 <sup>※1</sup> 令和2年度(2021年度)	目標値 <sup>※1</sup> 令和23年度(2041年度)
誘導施設の立地数 (伊那北駅～伊那市駅周辺地区)	28 施設	27 施設 <sup>※2</sup>
誘導施設の立地数 (国道361号周辺地区)	19 施設	19 施設
誘導施設の立地数 (伊那市役所周辺地区)	9 施設	9 施設
誘導施設の立地数 (高遠町総合支所周辺地区)	10 施設	10 施設

※1 施設分類が複数にわたる場合は複数施設としてカウントする。(例：伊那小学校の施設分類は「小学校」と「防災拠点施設」であるため、2施設としてカウント)

※2 既存施設の維持を目標値の基本とするが、施設の統廃合により機能強化を図ることが想定される施設については、現状値より施設数を減じた目標値とする。

#### 2) 居住誘導区域の人口密度

評価指標	現状値 平成27年度(2015年度)	目標値 令和23年度(2041年度)
居住誘導区域の人口密度 (伊那地域)	23.4 人/ha	23.4 人/ha
居住誘導区域の人口密度 (高遠町地域)	19.1 人/ha	19.1 人/ha
居住誘導区域の人口密度 (居住誘導区域全域)	23.2 人/ha	23.2 人/ha

※ 平成27年国勢調査における250mメッシュ別人口に、メッシュ面積に占める居住誘導区域面積の割合を乗じて算出した人口の合計を、居住誘導区域の面積で除して算出した。

## 3) 公共交通の利用状況

評価指標	現状値 令和元年度（2019年度）	目標値 令和23年度（2041年度）
伊那北駅・伊那市駅の人口1人あたりの年間乗車回数 <sup>※1</sup>	11.9回/年	11.9回/年
市街地循環バス1便あたりの利用者数 <sup>※2</sup>	3.9人/便	3.9人/便
JRバス1便あたりの利用者数 <sup>※3</sup>	15.6人/便	15.6人/便

- ※1 「伊那市統計書令和2年版」における伊那北駅と伊那市駅の乗車人員を合計し、本市人口（平成31（2019）年4月1日時点）で除した値。
- ※2 「伊那市統計書令和2年版」の市街地循環バス乗車人員における外回りと内回りの年間利用者数を合計したものを365で除し、その値を外回りと内回りの運行回数（1日あたり）の合計で除した値。
- ※3 「伊那市統計書令和2年版」のJRバス乗車人員（南アルプスジオライナー・パノラマライナーを含む）の総数を、JR高遠線の年間運行便数で除した値。

## 4) 市民アンケートによる市民の満足度等

評価指標	現状値 <sup>※1</sup> 令和元年度（2019年度）	目標値 令和23年度（2041年度）
公共交通機関の充実に関する満足度の平均 <sup>※2</sup>	2.3ポイント	向上
無秩序な市街地の防止と健全な市街地の形成に関する満足度の平均 <sup>※2</sup>	2.5ポイント	向上
大規模なスーパーや伊那市駅、市役所や支所周辺などに住宅や店舗、公共施設を集積させる必要があるとした市民の割合	42.2%	低下
伊那市に「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と考える中学生の割合	48.5%	向上

- ※1 現状値は令和元年度に実施した「伊那市都市計画マスタープランの改訂及び伊那市立地適正化計画策定に関するアンケート調査」の結果。
- ※2 有効回答のうち「満足」を4ポイント、「やや満足」を3ポイント、「やや不満」を2ポイント、「不満」を1ポイントとし、合計値を有効回答者数で除した平均値。

## 8.2 進行管理方法

居住や都市機能の誘導による都市構造の転換は短期間でなし得るものではなく、長期的視野に基づいて行う必要があるため、本計画の目標年度は概ね20年後の令和23年度（2041年度）としています。

この約20年間で都市構造の転換を効果的に進めていくためには、誘導施策の実施と併せて、設定した各誘導区域の妥当性や実施した誘導施策の効果などについて検証・評価を行っていく必要があります。第11版都市計画運用指針（令和3年11月一部改定）においても、「おおむね5年毎に計画に記載された施策・事業の実施状況について調査、分析及び評価を行い、立地適正化計画の進捗状況や妥当性等を精査、検討すべき」とされています。

また、社会経済情勢の変化や上位・関連計画の見直し等があった際、それに対応した計画とする必要が生じる可能性があります。

以上を踏まえ、下図のPDCAサイクルにより概ね5年毎に、本計画に記載した誘導施策の実施状況や数値目標の状況についての調査及び評価を行い、その評価や社会情勢の変化等を踏まえた計画の見直し・改定を必要に応じて行います。

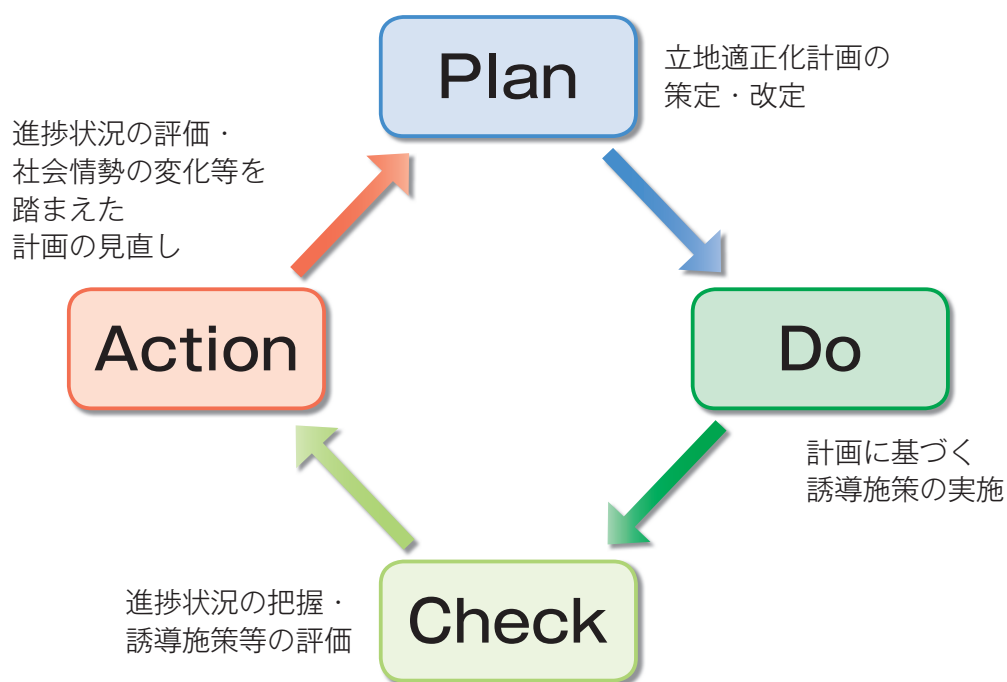


図 PDCAサイクルのイメージ